

+ Viva Kango

Campus News of the Japanese Red Cross Hokkaido College of Nursing

日本赤十字北海道看護大学

第8回

大 学 祭

第八回大学祭が「無限大君の夢にアシスト」というテーマで六月二十四日(土)、二十五日(日)の二日間、本学構内で催されました。二日間で一三四五名の来場者がありました。

初日、肌寒い曇り空の下で大
学祭がスタートしました。そん
な天気を吹き飛ばすかのごとく
薄荷童子が駐車場で力強くよさ
こいソラ



中庭では吹奏楽部がみごとなアンサンブルを披露してくれました。学内では若者の性を考えるピアッ子サークルが性感感染症、中絶などの問題について訪れた若者達を啓発し、講堂では齋藤秀哉千歳桂病院副院長(前本学教授)による健康寿命を延ばすことの意味

義と方法についての講演会が同窓会によって催されました。恒例の「ヘルスチェック」は今年も人気が高く、翌日と併せて三六六名の来室者を迎えました。北見保健所によるHIV検査も実施され、好評でした。昼食時には「朝食」メンバーによる手作り健康食弁当が人気を博していました。

二日目、爽やかな青空の下、音楽部によるハンドベルの演奏、Z・Zによるゴスペルライヴ、北見工大ダンス部によるヒップホップダンスが中庭に集まった観客の目と耳を楽しませてくれました。実習室では「看護の体験教室」が開かれ学生が日頃の学習成果を訪れた方々に披露していました(来室者数六十八名)。献血、骨髄バンク登録、チャリティ

イーバザー、味自慢の各種屋台も大学祭を盛り上げてくれました。一般の部終了後に行われた後夜祭では、ビンゴゲーム、バンド演奏な



どで二日間の疲れを吹き飛ばし、群青色の夜空に打ち上げられた花火を見て無事大学祭を終了しました。実行委員を始めとする関係者の方々、お疲れ様でした。

看護学実習を振り返って

昨年十月から冬休み、春休みをはさんで成人、老人、母性、小児、精神、地域の各看護学実習が行われています。これらの実習は、三年次前期まで学内で学習した内容と、基礎看護学実習Ⅰ・Ⅱを基盤にして各看護学実習の目的・目標に沿ってすすめられています。実習期間も長期にわたり、実習する地域も北見市だけではなく、網走市・清水町・置戸町など遠方でも行われています。

あと数日の実習が残っていますが、これまでの実習を振り返って学んだことや感じていることを二人の四年生に寄せていただきます。



4年生 前川沙織

実習は一言で言って楽なものではありませんでした。今、振り返るととても大変なことを乗り越えてきたのだと感じています。実習を乗り越えられたのも、仲間の存在がとても大きかったと感じています。仲間からの「がんばろうよ!」の一言にどれだけ救われたかわかりません。そして、仲間の存在が実習を有意義なものにしてくれました。実習でかけがえのない仲間に出会えたことを嬉しく思います。

また、実習は、どれだけたくさんの方に協力していただいたかわかりません。実習は、学生一人で行っていきけるものではあ

りません。協力してくれる患者さんやそのご家族、指導してくださる先生や指導者の方、看護ケアを教えてくださいださるスタッフのみなさん、看護とは違う視点で助言してくれる他職種のみなさんなどの存在があるからこそ実習が成り立っていることをあらがたく思っています。これから一人前の看護師になるために、仲間を大切に、感謝の気持ち

を忘れずに勉学に励みたいと思います。



4年生 水口可奈恵

これまでの実習を振り返ると最初はアセスメントもできず、看護の方向性もつかめず、周り

の学生に取り残されていると落ち込む日が多くありました。なにより、指導者の方へ何を報告したらいいのかわからず、ただとまどうばかりでした。ですが、そんな時先生に相談すると先生は私を救い出してくれました。それから看護師に聞きたいことや学びたい技術などが明らかになり、積極的に実習に取り組むことができました。同時に指導されることが自分の学びの深さになっており、指導は喜ばしいことだと受け止めることができました。そして、学生なのだ

からできないことが当たり前でできないことが何か分かったその経験が勉強になるという前向きな考えを持ちました。上手くできなくて反省したときも、これも学び方につながれば自分の糧になると思え、恐れずに実習に立ち向かうことができたと思います。

残りの実習も、私らしく前向きに、困ったときは教えてくださるスタッフの方や先生に相談して、そこから自分が多くのことを学び成長できたらいと思っています。

自治会活動 駐輪場を使用しましょう!!

会長 中村隆治

本大学には、第一駐車場の一角に駐輪場があります。最近、駐輪場ではなく正門前に停めたり、歩道に停めてある自転車が目立ちます。歩行者の妨げになるだけではなく、盗難の被害に遭う可能性もあります。

まずは、駐輪場を使用しましょう。停める場所が足りないという事実があれば、造設を申請することができます。

学生のみなさんのご理解とご協力をよろしくお願い致します。



第1回

北海道成育看護研究会のご案内

第一回北海道成育看護研究会が、来る九月二十(土)・三日(日) 本学を会場に開催されます。

この研究会は、成育看護の理念を普及し、北海道の看護関係者の情報交換の場を提供するのが目的です。会員は、母と子とその家族に関わる保健・医療・福祉・教育等の専門職の方々です。一日目は午後からの開会です。十六時三十分から講師岡田洋子氏(本会理事長/旭川医科大学教授)による特別講演「子どもと命の尊さについて考える」は、入場無料で一般に公開致します。学生の皆様も多数参加されるようご案内します(会場/講義室112)。二日目は、テーマセッション「小児のプレパレーションの実感」があり、午前中で閉会となります。

生まれればかりの研究会ですが、有意義な会にしたいと思っております。皆様のご参加をお待ちしております。

お問い合わせ先

母子看護学講座 上野美代子 nenno@chokoku.ac.jp

同窓会総会開催

日本赤十字北海道看護大学同窓会は、この春第四期生を迎えました。本年は第二回同窓会総会・懇親会の開催年度であり、本学八回目の大学祭に合わせ、実施しました。

同窓会長 若王子末

懇親会は六月二十三日十九時よりオホーツクビアファクトリーにて開催し、平日の夜ながら三十四名の参加を頂きました。道内だけでなく遠くは関東からの参加もあり、少ない人数ではありましたが、同窓生、教員と交流を深め、楽しい時を過ごすことが出来ました。



総会は六月二十四日十三時より、大学講義演習棟の一室をお借りし、二十二名の同窓会員の参加と、約半数の同窓会員の委任状を得て執り行いました。今後の同窓会活動に向けて、同窓会員からの意見を頂き、貴重な会となりました。総会に続いて、齋藤秀哉先生による講演会「健康寿命を延ばすために一禁煙に

ついて考える」を開催しました。興味深い内容で学ぶ点も多かったのですが、周知不足もあり、今後の同窓会としての活動について考えるべき点がいくつも見えてきました。今後はより多くの同窓生の参加をもつて同窓会が活動できることを願って止みません。

メッセーgerズ

大学院修了生からの



北見赤十字病院 助産師
山口さつき

仕事を続けながら勉強できるなら、苦手な看護研究がわかるようになるなら、安易な気持ちで大学院に入学しました。しかし、のんびり屋で何でも後回しにしていた私にとって仕事との両立は難しく、その生活に慣れるまで本当に大変でした。そのうち時間を大切にするようにになり、少しの暇を見つけては出来ることをやり以前より気持ちの切替が上手くなりました。や

シリーズ 研究と私



助教授
休波茂子

卒業と同時に、がんの専門病院に就職し、自分のがん看護の専門性をめざすものとばかり思っていました。その後、救急病院でICU、脳神経外科、消化器外科と急性期での臨床経験を重ねていた頃に、院内感染の深刻な状況に遭遇しました。そのことが感染管理の専門家をめざ

すきっかけとなりましたが、結局は、感染管理の実践家ではなく、教育と研究への道へと進むことになり、これまで院内感染や感染管理に関する研究に取り組んできました。

現在は、看護師の手洗い行動に焦点をあてて、特に看護師の手洗い行動の変容を促す方策について検討しています。日本の感染管理については、施設のサバイランスが効果的に機能していないため、研究を行っても、結果として示されたことがどの程度感染率に反映しているかはつきりしません。研究を行いな

か、混沌としていました。ある先生が「看護大学や大学院が増え、それに伴って看護に関連した学会も多くなり、一年に多くの研究が発表されているが、看護の質は変わったのだろうか！」という疑問を投げかけていました。その時、少しでも看護の質の向上に貢献できるような研究をめざしていかなければならないと思いました。

これから教育と研究の両立がどれだけ続けていけるかわかりませんが、研究の量よりも質をめざして、自分なりに納得のいく研究がしたいと考えています。しかし、最後に一言、今のところ、前途多難です。

消防訓練 実施



七月十一日午前十一時五〇分から本学で二回目の消防訓練を実施しました。

訓練は、実習棟三階地域・老人看護実習室から火災が発生したという想定で、自衛消防本部

設置訓練、通報連絡訓練、避難誘導訓練、初期消火訓練、警備訓練、応急救護訓練を行いました。

んだ仲間と刺激あいながら、得たことを生かしていきたいと思えます。

訓練には、一年から三年までの学生が参加し、授業中に聞こえた避難放送の後、授業教員と応援に駆け付けた教員の指示に従い避難場所のグラウンドまで避難し人数の確認を行いました。

二回目の訓練のせいか火災報知器が作動してから二十分で全員が避難を完了しました。

訓練終了後、北見地区消防組合の高田副署長と本学二ツ森学部長から講評をいただきました。

その後、消防署職員の指導で学生達は普段使うことのない消火器を実際に使用する訓練を行いました。

新任教職員紹介

四月に着任されました、五名の教職員の方から、ご挨拶のメッセージを頂きましたので、ご紹介いたします。

母子看護学講座講師 常田美和

私は、北海道大学医療技術短期大学を卒業し、保健師学校と助産師学校で学んだ後、助産師として就職しました。その後、看護教育に携わったことがきっかけとなり、札幌医科大学保健医療学部に入入学し、大学院に進学して早産児の親に関する研究をしてきました。

道産子の私ですが、北見は今

まで未知の土地でした。ペーパードライバーを返上し、公私ともに少しずつでも行動範囲を拡大していきたいと思っております。よろしくお願いいたします。

基礎看護学講座助手 澤井幹樹

毎年、七夕の笹を見る度に「少しでも早く、苦しなないで死ぬますように」と乱れた字で書かれた短冊を思い出します。進行性の難病で死期も近かった方の「ねがい」でしたが、深く印象に残っています。

大学という環境において、看護の基礎的な部分に立ち返り、そのような方々にどのようなお手伝いができるのかを模索して

いる最中です。少しずつでも前に進むことができれば、と考えています。

成人・老年看護学講座助手 鳥巢妃佳里

これまで病院で看護師として働いた経験しかなく教員ははじめてのことなので、演習にしても実習にしても手探りな部分が多いのですが、諸先生方にも学生さん達にも助けていただきながら少しずつ慣れてきたかなと思うこの頃です。

至らないところも多いかとは思いますが、これからもよろしくお願ひいたします。

成人・老年看護学講座助手 坂田志保路

現在、私は臨床実習指導の真っ最中です。高齢者の方の持つパワーや強さと同時に、看護者の関わり次第でその方の健康状態や日常生活の質を向上させることが十分に可能であることを改めて痛感させられる日々です。人生最後のライフステージにある高齢者にとって少しでもウェルネスであり、かつその人らしい日常生活を楽しみながら過ごしていただけるように、学生の皆さんと一緒に学習を深めていきたいです。

事務局次長 服部一喜

●第7回公開講座開催●
21世紀の健康づくり

～オホーツク地域で生活する人々の生活習慣と健康～

●開催日時・内容・講師

開催日	内容	講師
第1講 9月6日(水)	どのような病気が多いのか? —生活習慣と病気—	教授 伊藤善也
第2講 9月13日(水)	生活習慣と血圧 —家庭用血圧計を上手に使う—	講師 山本美紀
第3講 9月20日(水)	骨・関節を大事にする 生活を考える	講師 寺島奈子
第4講 9月27日(水)	人のからだ—カルシウムと血圧を調整するホルモンについて—	教授 大森行雄
第5講 10月4日(水)	今、子ども達のからだに何が起きているのか?	講師 井上由紀子

- 開催場所 日本赤十字北海道看護大学
- 対象者及び定員 一般市民60名(18歳以上、管内全域を対象とします)
- 受講料 1,000円
- 申込期限 平成18年8月30日(水)まで
- 問い合わせ 日本赤十字北海道看護大学 教務課
TEL(0157)66-3311 FAX(0157)61-3125

平成19年度 大学院看護学研究科看護学専攻
修士課程学生募集について

1. 募集人員

試験区分	募集人員
1期	6名(女・男)
2期	若干名(女・男)

2. 募集専門系(領域)

- 看護管理学系…看護管理学領域
- 実践看護学系…成育看護学領域、急性期看護学領域、地域看護学領域
- 臨床実習看護学系…臨床実習看護学領域

3. 入学試験日程

試験区分	出願期間	試験日	合格発表日
1期	平成18年 9月1日(金)～9月20日(水) 出願締切当日の消印有効	平成18年 9月24日(日)	平成18年 9月26日(火) 午後5時
2期	平成19年 2月1日(木)～2月20日(火) 出願締切当日の消印有効	平成19年 2月25日(日)	平成19年 2月27日(火) 午後5時

4. 試験科目

- (1)専門科目(志望する各専門領域に対する試験科目)
- (2)外国語科目(英語)
- (3)面接

※問い合わせ先: 学生課入試係 (☎0157-66-3311代)

日本赤十字北海道看護大学学内誌

+ Viva Kango

第17号

発行日/2006年7月25日
編集・発行/広報委員会

〒090-0011 北海道北見市曙町664-1
TEL(0157)66-3311 FAX(0157)61-3125
mail to: kouhou@rchokkaido-cn.ac.jp
http://www.rchokkaido-cn.ac.jp

編集後記

大学祭を終えて前期が終わりに近づき、教員も学生も机に向かう時間が増えていることでしょうか。

さて第十七号+ Viva Kangoをお送りします。新年度のスタートを行事や学生と教職員の一言から振り返っていただければ幸いです。

例年よりも晴天の日が少ないようですが、長期予報によると夏の天候は平均的ということですので、楽しい夏休みとなるようにお祈りしております。

これまででは市役所で長く行政の仕事・教育委員会の事務に携わってまいりましたが、今、新たな気持ちで大学の仕事をさせていただきます。今後ともよろしくお願い致します。